

学校の詩

うた

◆子ども達の活躍で・・・

先日から、ホームページの「校長のひとりごと」でも紹介してきましたが、2月13日に宮崎市で行われた「九州アンサンブルコンテスト」に、吹奏楽部の三人[久保寛太さん、穴井豪人さん、田島銀士さん]が出演し、「銀賞」を受賞しました。まず何より、福岡県大会を突破し、九州大会に出場するという快挙を成し遂げた三人に心から拍手を送ります。大会後、校長室に挨拶に来てくれたときの三人の言葉、

■貴重な経験ができてよかったです。この経験を他の吹奏楽部員にも伝え、今度はみんなで金賞をとりたいと思います。ありがとうございました！

■たくさんの人のおかげで、楽しく演奏することができました。本当にありがとうございました。

■こんな経験をさせてもらったので、これからは日頃の生活でもさらに頑張っていきたいと思います。ありがとうございました！

これこそが、三人の素晴らしさであり、「成長」であると思います。おかげさまで、職員玄関内には彼らの輝かしい成果である賞状やトロフィーが、11月に「第11回太宰府市中学校野球大会万葉カップ」で優勝を果たした野球部の成果とともに華やかに飾られることとなりました。

コロナ禍であっても、こうして子ども達が努力をし、その成果がこんなにも如実に表れることを大変嬉しく思います。これらのことが、子ども達の「自信」となり、刺激となって互いに切磋琢磨しながら、これからも成長し続けてほしいと思います。野村克也さんの言葉・・・

『私は「失敗」と書いて「成長」と読むことにしています。負けは過信やうぬぼれを戒め、謙虚さ、素直さを教えてくれる。失敗は成功の糧とすることができる。ですから、負けたとき、失敗したときに、その人間の価値は決まる。そんなときどうするか・・・』

を胸に留めて、これからも努力を続け、失敗を恐れず、チャレンジし続けてほしいと思います。

保護者の皆様には多大なるご協力をいただき、ありがとうございました。これからも保護者の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

◆GIGAスクール構想



今年度に入り、「GIGAスクール構想」という言葉を頻繁に聞かれるようになったかと思います。GIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略です。直訳すると、「全世界とイノベーション(革新・変革)への扉をすべての子どもたちへ」となります。これは、「児童・生徒向けの一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」です。休校等によって、大きくクローズアップされた「オンライン授業」等を早期に実現するために、計画を前倒しにするようになりました。今年度中には、大野城市でも一人1台のタブレットが

導入されます。現在、大野城市教育委員会と連携して、「タブレット端末などの使用マニュアルの整備」「保護者の方へ向けたオンライン授業実施についての案内」「家庭内無線ネットワーク環境の調査」「オンライン授業の試行」「教職員のICTリテラシー研修」等の準備を進めています。もちろん、休校中のオンライン授業等のためだけでなく、日頃の対面授業の中でも、ICT機器を有効に活用した学習に積極的に取り組んでいきたいと考えています。Society.5.0(インターネットですべての人とモノが繋がる時代)に、持続可能な社会を担う子ども達を誰一人取り残さず、一人一人に応じた個別最適化学習にふさわしい教育環境を整えていきます。今後、様々なお願いもあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。



『あおいくま』

校長コラム

皆さんは、滝川広志さんをご存じですか？この名前だと「誰？」となるかもしれませんが、モノマネタレントの「コロッケさん」ならご存じでしょう？CMやドラマにも多数出演されていますし、何よりモノマネタレントとしては、最も有名な方だと言っても過言ではありません。いつも笑っているイメージのコロッケさん。今日は、そんなコロッケさんについて紹介します。『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』という本の中から抜粋です。

僕が中耳炎(ちゅうじえん)になったのは小二のときです。しかし、母にそのことを言い出せませんでした。お金がかかるから我慢しようと思ったんです。姉と僕の間には母に気を遣わせてはいけないという暗黙のルールがありました。お金が必要なら自分でアルバイトをして稼ぐ。僕はそれを当然のことと考えていたからです。実際、中学、高校と新聞配達をしながらお小遣いを貯めていました。

耳の痛みはその後時々起こり、耳だれが出ることもありましたが、我慢できないほどではなかったもので、そのままにしておきました。

ところが、中二の時、突然、耳鳴りがして右耳に激痛が走ったんです。僕は耐えられずに、その場に倒れ込んでしまいました。病名は、真珠腫性(しんじゅしゅせい)中耳炎。即入院です。しかし、そんな大変な時でも僕は「お母さんに悪い」と、そのことばかりを考えていました。

母は「大丈夫ね？」と声を掛けてくれましたが、その表情はとても辛そうでした。母は痛みを打ち明けられずにいた僕の気持ちをわかってくれていたでしょうし、そうさせてしまった自分を責めていたに違いありません。息子の右耳が聞こえないと宣告された時、一体どんな気持ちだったんだろうかと思うと、いまでも胸が痛みます。

僕はといえば、落ち込んだのは本当に一瞬でした。「左耳が聞こえるからいいや」とすぐに気持ちを切り替えていました。両耳が聞こえることを期待するのではなく、片耳になってどうすべきかを考えていました。自分から先回りして右側に座る、それもふざけたりしながら相手に気づかれないように自然な形で振る舞う、という技術をいつの間にか身につけていったんです。この時の呼吸は、その後、お笑いの世界に入ってから大変役に立ちました。

僕がすぐに気持ちを切り替えられたのは、母譲りの“いい加減”な性格と「あおいくま」のおかげなのかもしれません。

まくいおあ

けさばこせ

るるるる

なななな

最後に出てくる「あおいくま」は、コロッケさんの家の柱に貼ってあった右のような紙だそうです。(これはもともとおばあちゃんが教えてくれたものだそうです)コロッケさんのお母さんは、コロッケさんに「広志くん、この言葉だけは覚えておきなさい。これを覚えておけば大丈夫だから」と言ってあったそうです。

コロッケさんの右耳が聞こえないことすら私は知りませんでした。あの明るく、人を笑顔にする素敵なお方です。右耳が聞こえないということを後ろ向きに考えるのではなく、前向きにとらえ、常に努力をし、一流の芸人となられていることが何より素晴らしいと思います。

「あせるな」「おこるな」「いばるな」「くさるな」「まけるな」の5つの言葉は、簡単なようで、実は時に非常に難しい、しかし、人が生きていくときの大切な「心持ち」だと私は思います。コロッケさんは、こんなことも言ってあります。

母さんが教えてくれた「まけるな」は、「人に負けるな」ではなく「自分に負けるな」ということだった

さらに、こんなことも・・・

僕には人として、芸人として大事にしている三原則があります。

それは「気付くか、気付かないか」「やるか、やらないか」「できるか、できないか」。

例えば大切な何かに気付いた人と気付かなかった人では、たった1年でも大きな差が開きます。「やるか、やらないか」も同じ。どちらを選択するかで人生は大きく異なってきます。「できるか、できないか」は技量の問題なので、やってもできないこともあります。ただ、そこで大事ななのは「できるまでやるか」つまり「諦めない」ということです。

人には、それぞれに生きてきた歴史があり、見えない様々な苦勞や苦悩があります。それでも生き生きと誰かのために、社会のために、自分に負けず努力できる人でありたいと、コロッケさんの生き方や言葉から感じました。

